

# 山形県高等学校遠隔・通信教育ネットワーク

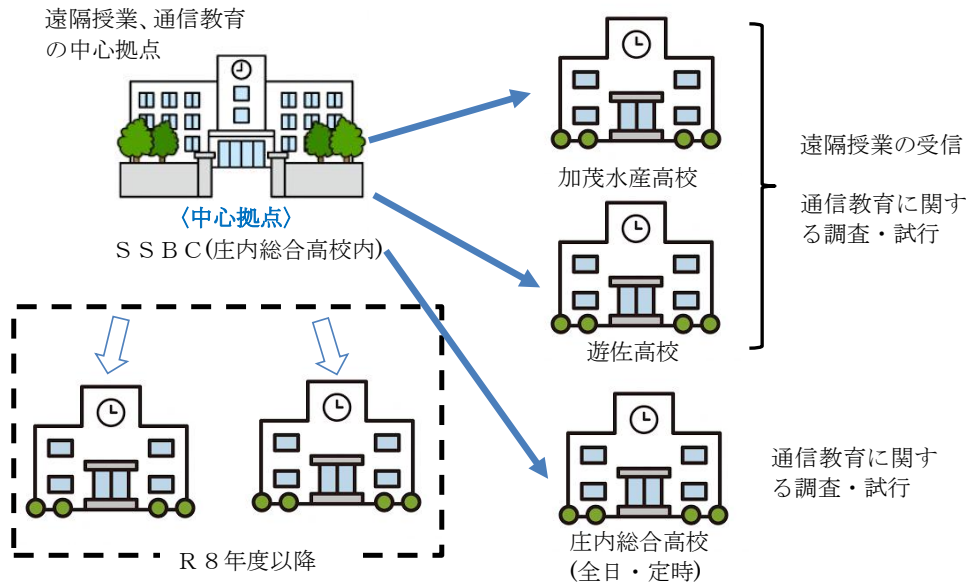
## 目的

- 配信ベースセンター（Shonai Streaming Base Center（SSBC））を拠点とした年間を通じた遠隔授業・通信教育の実施
- 小規模校に在籍する生徒の進路希望や学習到達度に応じた遠隔教育による学びの質の保証
- 生徒のニーズに応じた、オンデマンド教材、通信による教育方法を活用した、あらゆる生徒への学びの保障

## 現状、課題

- 高校の小規模化により、配置される教員数が少なく、生徒の多様な進路希望等に応えられるような選択科目を開設できない、学習機会の充実が図られない等の課題を抱えている。
- 地域の核となり魅力を発信している学校が多くあるが、授業・進路指導等において、幅広い学力層へ対応した指導、多様な背景を持つ生徒に対応した指導等、課題を抱えている現状にある。

## 実施体制



中心拠点	庄内総合高校校長、教頭、配信ベースセンター所属教諭
構成校	受信校（加茂水産高校、遊佐高校）校長、教頭、担当教諭
教育センター	教育センター研究・情報課課長、主任指導主事、指導主事
高校教育課	高校教育課 課長、課長補佐、教育DX推進室室長補佐 指導主事（指導班、DX室）

## 取り組み状況

	遠隔授業	通信教育
R6年度	中心拠点、構成校の選定、実施に向けた機材等の準備	
R7年度	加茂水産、遊佐へ2教科(数英)6科目の通年をととした遠隔授業の実施、県立高校へのニーズ調査	通信教育実施に向けた状況調査、実施校へのヒアリング

## 成果と課題

### 遠隔授業

（生徒アンケートより）

- ・受講生徒の多くが遠隔授業の持つ可能性や意義を認識している。
- ・遠隔授業であっても自身の考えや感想を伝えることに大きな障壁を感じていない。
- ・生徒数の多い授業においては、個々の生徒の学習状況の把握やきめ細やかな指導が難しくなるため、自己調整力に関連する設問への肯定的な回答が低かった。

（配信担当、受信校担当教員ヒアリングより）

- ・意欲のある生徒に対しては対面授業と遜色ない学習効果が得られている。
- ・習熟度別授業等の実施により、進路実現に向けた質の高い学びを実現できた。
- ・各校の選択科目の枠や実習等の都合により、時間割の変更が難しい。今後、受信校を拡大する上で、どのように優先順位をつけて調整するかのルール作りが必要

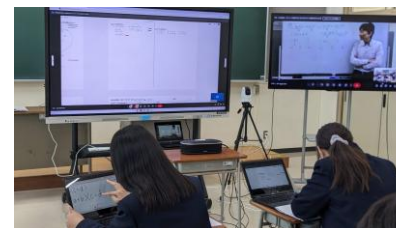
### 通信教育

- ・不登校生徒、病気療養中の生徒等の学びを止めないため、学校において内規を整理し、通信教育等での学習を実施した事例を県として把握、共有できた
- ・構成校において対象生徒がおらず、通信教育を実施できなかった。配信拠点からの通信教育のあり方について、今後も調査が必要。

## 山形県高等学校遠隔・通信教育ネットワーク

## 遠隔授業実施の様子

## 配信側



ICTを活用した双方向でのやり取り



ALTのリモート参加



受信校、オンラインでのハイブリッド形式による公開授業



## 受講生徒、担当教員から

## 受講生徒

- ・対面授業とほぼ変わりなく進行が出来るし、端末を活用しつつ、プレゼンテーションなども経験できた。
- ・新鮮な気持ちで楽しく授業を受けることが出来た。
- ・対面授業のほうが質問しやすかった。

## 担当教員

- ・講師の先生の授業内容がとてもわかりやすく、また生徒も前向きに取り組んでいたため、対面と同等の効果はあった
- ・自分の専門科目とは違う授業を担当させていただいたので、科目特有の進め方だったり生徒への関わり方など、勉強になる部分が多分にあった。
- ・小規模校勤務として、職員数に対しての業務量が多さを感じていたが、遠隔授業を行うことでその負担感が減ったように感じた。
- ・ICT機器が苦手な先生が担当になった場合最初の3ヶ月程は対応が大変そうな様子であった。